

初任者研修・新規採用者研修第10回は「人権教育の推進と様々な人権課題」をテーマに、箕面市教育委員会人権施策室の大坪研介指導主事に講義をしていただきました。配付資料やミニワークを通して人権教育を基盤とした子ども理解や集団づくりについて考え、「学校」という場所で子どもたちとともに過ごす教職員としての心持ちや関わり方を見つめ直しました。後半は様々な人権課題について、法令や社会情勢、実際の学校生活でのようすと結びつけながら対応を考えました。

～振り返りシートより～

- ・今まで意識していなかった特権を改めて理解することができました。その人個人の事情や考え方があることをふまえ、自分の視点だけではなく周りをきちんと見られる教員でいたいと感じました。
- ・学校で生活するなかで「マジョリティ」と「マイノリティ」が発生することが数多くあります。今回の講義で、人権を考えるうえで自分の歩んだ道(昔のこと)を思い返すことが大切だとありましたが、自分は大体のケースで「マジョリティ」の立場だったと思います。「マイノリティ」の立場の児童が、どんな時に、どんな状況で、どんな風に感じるのかを考えて、日々の学級づくり、授業実践を行う必要があると感じました。
- ・生徒指導のときによく生徒から「あの子だけずるい」という発言があり、なかなか生徒の納得できる返答ができないことがあったので、今回の研修を聞いて、まさにマジョリティ側が優遇されている自覚がないものであることに気づきました。そして、これからはお互いの立場、置かれている状況を見ながら、双方が理解できるように説明するようになっていきたいと感じました。
- ・特権について、人権について、改めて自己を見つめ直すよい機会になりました。学校事務として、直接子どもと関わる機会は少ないですが、徴収金や提出物等を通して、気づけることもあると思うので、アンテナをはっていくことが大切だと思いました。

今回の研修内容で、今はあまりピンとこない人権課題もあったかもしれませんが、来年も再来年も、場合によっては向こう10年、出会わずに過ごすこともあるかもしれません。しかし、その中には実際は見過ぎていた、見逃していたものもあることでしょう。「いずれどこかで」なのか、「もうすでに」なのか、まずは知ること、知ろうとすることを大切にしてください。

そして、学級担任だけでなく、様々な立場や場面から子どもを理解し、見守ることの大切さを学年や学校で共通認識していけるとよいです。もちろん、困ったことや悩んでいることを報告するだけでなく、子どもたちのささやかな成長や活躍も普段から教職員で共有するようにしたいですね。前向きな気持ちは自分や集団をよい方向へ運んでくれて、明日への活力にもつながります。



※人権教育や学級集団づくりに関する参考資料は、大阪府教育センターWebサイト「教職員の方々へ」の「教材・資料等」からダウンロードできます。
(https://www.osaka-c.ed.jp/matters/humanrights_top.html)
また、人権課題についてテーマごとの研修・研究会等も所属市町実施のものや校内研修等でも学ぶ機会があります。

